

### III特殊分類別（財別） 鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

（表5、表6）

#### 1. 最終需要財

5年の県内最終需要財の生産指数は90.6で、対前年比△1.7%と減少した。これは、資本財、耐久消費財が減少したためである。

一方、在庫指数は113.6で、対前年比4.3%と増加した。

##### 1-1 投資財

5年の県内投資財の生産指数は、88.7で対前年比△0.6%と減少した。一方、在庫指数は113.6で対前年比13.4%と増加した。

##### 1-1-1 資本財

5年の県内資本財の生産指数は85.6で、対前年比△3.3%と減少した。これは、パーソナルコンピュータ、数値制御専用機等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は91.3（対前期比0.8%増）、4～6月期は84.3（同7.7%減）、7～9月期は88.4（同4.9%増）、10～12月期は78.5（同11.2%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は134.9で、対前年比35.1%と増加した。これを四半期別にみると、1～3月期は117.9（対前期比31.5%増）、4～6月期は146.6（同24.4%増）、7～9月期は150.1（同2.4%増）と3期連続増加し、10～12月期は129.3（同13.9%減）と減少した。

##### 1-1-2 建設財

5年の県内建設財の生産指数は93.2で、対前年比3.1%と増加した。これは、アルミニウムサッシ、アルミニウムドア等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は101.4（対前期比16.9%増）、4～6月期は88.2（同13.0%減）、7～9月期は95.8（同8.6%増）、10～12月期は87.2（同9.0%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は91.0で、対前年比△9.4%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は95.7（対前期比5.7%減）、4～6月期は88.7（同7.3%減）と2期連続減少し、7～9月期は89.3（同0.7%増）、10～12月期は93.8（同5.0%増）と2期連続増加した。

##### 1-2 消費財

5年の県内消費財の生産指数は93.2で、対前年比△3.3%と減少した。一方、在庫指数は101.5で、対前年比△10.5%と減少した。

##### 1-2-1 耐久消費財

5年の県内耐久消費財の生産指数は89.2で、対前年比△5.3%と減少した。これは、乗用車等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は100.3（対前期比7.6%増）、4～6月期は83.5（同16.8%減）、7～9月期は94.0（同12.5%増）、10～12月期は79.6（同15.3%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は108.6で、対前年比△12.6%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は84.6（対前期比9.4%減）、4～6月期は114.6（同35.5%増）、7～9月期は116.0（同1.2%増）、10～12月期は126.0（同8.6%増）と3期連続増加した。

##### 1-2-2 非耐久消費財

5年の県内非耐久消費財の生産指数は101.6で、対前年比0.8%と増加した。四半期別に推移をみると、1～3月期は101.4（対前期比4.4%増）、4～6月期は101.3（同0.4%減）、7～9月期は101.1（同0.2%減）、10～12月期は101.4（同0.3%増）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は95.3で、対前年比△8.4%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は98.2（対前期比1.6%減）、4～6月期は100.8（同2.6%増）、7～9月期は95.4（同5.4%減）、10～12月期は89.1（同6.6%減）と一時期増加したが、再び減少した。

#### 2. 生産財

5年の県内生産財の生産指数は91.3で、対前年比△3.6%と2年連続して減少した。これは、鉱工業用生産財が減少したためである。

一方、在庫指数は104.2で、対前年比△4.4%と減少した。これは、鉱工業用生産財、その他用生産財がともに減少したためである。

##### 2-1 鉱工業用生産財

5年の県内鉱工業用生産財の生産指数は90.6で、対前年比△3.9%と2年連続して減少した。これは、乗用車用シート、合成ゴム等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は92.1（対前期比0.2%増）、4～6月期は91.2（同1.0%減）、7～9月期は91.6（同0.5%増）、10～12月期は88.2（同3.7%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は104.4で、対前年比△3.7%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は107.3（対前期比2.7%減）、4～6月期は103.6（同3.4%減）、7～9月期は101.3（同2.2%減）と3期連続減少し、10～12月期は105.2（同3.8%増）と増加した。

2-2 その他用生産財

5年の県内その他用生産財の生産指数は108.5で、対前年比2.0%と5年連続増加した。これは、軽油、重油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期は108.3（対前期比5.4%増）、4～6月期は108.1（同0.2%減）、7～9月期は111.1（同2.7%増）、10～12月期は107.2（同3.4%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は100.2で、対前年比△15.3%と減少した。これを四半期別にみると、1～3月期は103.9（対前期比14.2%増）、4～6月期は93.0（同10.5%減）、7～9月期は98.8（同6.2%増）、10～12月期は106.4（同7.7%増）と一時期減少したが再び増加した。

表5 特殊分類別鉱工業生産指数増減率

平成2年=100

	対前年増減率				5年四半期別・対前期増減率(%)			
	2年	3年	4年	5年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	△1.1	△1.2	△5.4	△2.7	4.1	△6.1	4.0	△7.4
最終需要財	△4.8	△3.2	△4.8	△1.7	6.8	△10.7	7.7	△10.4
投資財	△8.7	△5.5	△5.5	△0.6	7.6	△9.9	6.3	△10.4
資本財	△6.2	△6.0	△5.9	△3.3	0.8	△7.7	4.9	△11.2
建設財	△12.0	△4.9	△4.9	3.1	16.9	△13.0	8.6	△9.0
消費財	1.6	0.0	△3.8	△3.3	7.0	△11.2	7.3	△10.3
耐久消費財	1.5	0.4	△6.4	△5.3	7.6	△16.8	12.5	△15.3
非耐久消費財	1.9	△0.9	1.7	0.8	4.4	△0.4	△0.2	0.3
生産財	3.2	0.9	△6.0	△3.6	0.3	△1.0	0.5	△3.6
鉱工業用生産財	3.2	0.8	△6.4	△3.9	0.2	△1.0	0.5	△3.7
その他用生産財	4.3	2.0	4.4	2.0	5.4	△0.2	2.7	△3.4

表6 特殊分類別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

平成2年=100

	対前年増減率				5年四半期別・対前期増減率(%)			
	2年	3年	4年	5年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	5.6	6.8	0.7	△1.3	1.2	0.8	0.1	1.6
最終需要財	17.1	6.0	△0.9	4.3	6.5	10.3	2.5	△3.1
投資財	7.3	2.9	△2.6	13.4	13.6	7.3	3.0	△5.0
資本財	7.1	△6.2	6.1	35.1	31.5	24.4	2.4	△13.9
建設財	7.8	12.2	△10.4	△9.4	△5.7	△7.3	0.7	5.0
消費財	41.8	12.1	2.0	△10.5	△4.0	16.3	△1.7	2.8
耐久消費財	45.9	23.8	0.5	△12.6	△9.4	35.5	1.2	8.6
非耐久消費財	40.1	2.1	3.7	△8.4	△1.6	2.6	△5.4	△6.6
生産財	0.1	7.4	1.6	△4.4	△2.0	△3.7	△1.7	4.0
鉱工業用生産財	△0.4	7.9	0.7	△3.7	△2.7	△3.4	△2.2	3.8
その他用生産財	8.6	△1.2	19.8	△15.3	14.2	△10.5	6.2	7.7